

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

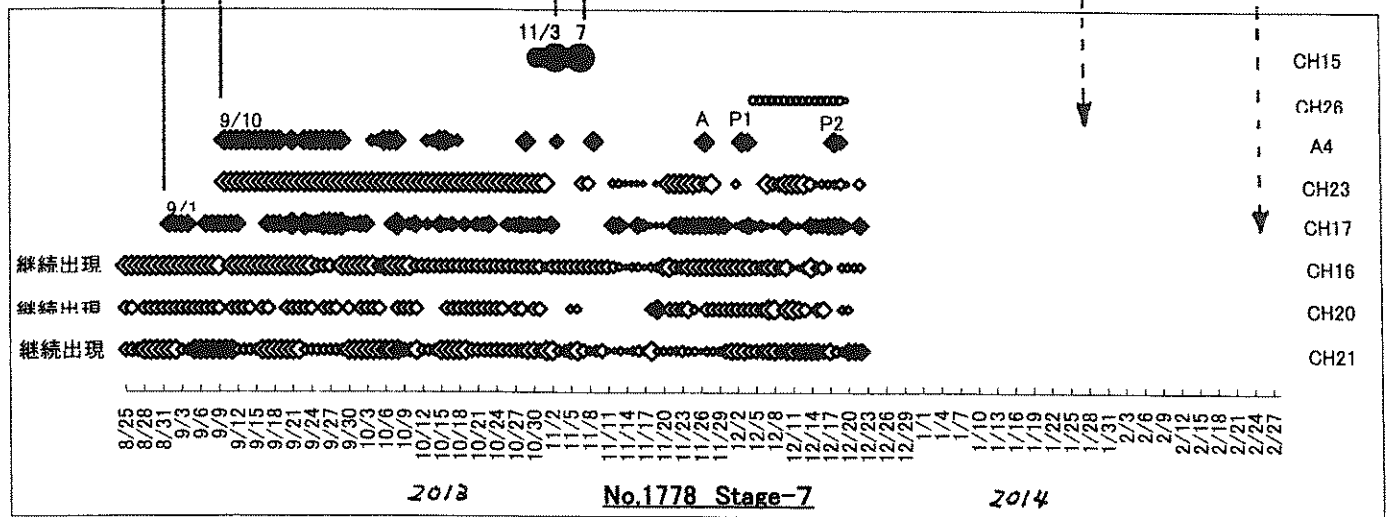
No.1778 近畿圏地殻M7.9 ± 0.3地震の可能性推定前兆 続報
第7ステージ前兆継続 1月初旬の可能性否定 現状2/25 ± を示す

A4 特異状態周期性 (BT周期性同様 周期性無ヒク + 平均周期 × 6 or 9 = 発生日) 経験則 (未だ1間隔のため周期的か不明)

A=周期性無=11/27 P1=12/3 P2=12/18 周期=15日 11/27+ (15×6) ⇒ 2/25 ±

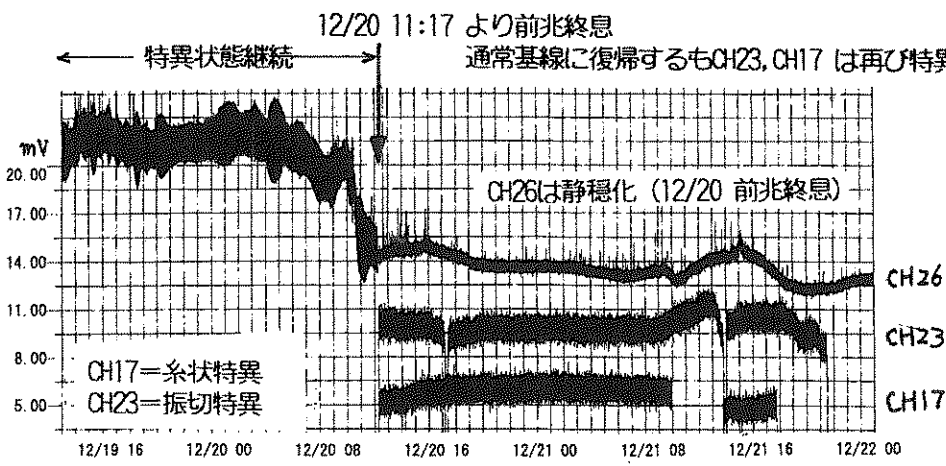
初現～極大: 極大～発生=2.1:3.9 (T_{fap}:T_{map}=20:13 経験則より)

前兆初現 9/1 極大 11/3 前兆終息予測 1/27 ± 2/28 ±
前兆初現 9/10 極大 11/7 前兆終息予測 1/28 ± 2/22 ±



2008年7月初旬から5年5ヶ月以上と云う過去最長の前兆継続が認められる特殊前兆=No.1778の続報、現況報告です。
本年09月からの第7ステージ前兆群を現在観測中認識です。
前兆継続出現開始の9/1 9/10を先行特異初現と認識するか、前兆初現と認識するかで、11/3 11/7の極大との関係で、経験則から、1/4 ± と2/25 ± の2種が考えられることを報告致しました。1/4 ± の場合は、09月の前兆継続開始を先行特異初現とした場合です。過去例では先行特異は、極大を過ぎると前兆が終息傾向となりますが、今回は上図の上から3～5段目の各前兆は11月初旬の極大後も継続出現しています。また、1/4 ± を示す場合には、11月初旬極大との関係(T_{map}:T_{pp}=3.9:1 経験則)から、12/21 ± 前兆終息の可能性が計算されておりました。しかし、12/22 夕刻現在、上図のとおり前兆終息は認められません。

左下波形のとおり、12/20の午前11時過ぎ、特異状態が継続出現していた CH26, 23, 17 の3観測装置の基線が一瞬で正常基線に復帰し、前兆が終息したため、01月初旬の可能性として、誤差も含め他の前兆出現観測装置(CH16, CH21)の変化を見ていましたが、両観測装置ともに前兆は終息せず、左下波形のとおりCH23, 17も再び特異状態が再出現致しました。
このことから、01月初旬を示唆する09月の前兆継続出現開始を先行特異初現と認識することは誤りであることが判りました。従って、少なくとも1月初旬に対応地震が発生する可能性は否定できます。現状、09月の前兆継続出現開始を前兆初現と認識する02月25日 ± 3 時期が、第7ステージが示す時期である可能性が高いと認識されます。これが正しい場合には、02月半ば以前に対応地震が発生する可能性は否定できます。



秋田観測点のA4特異が極大後に周期的出現の可能性も有、上図上のA(11/27)を周期性無ヒクとしますと、6倍値で同じ2/25 ± が計算されます。これが正しい場合には、1/2 ± に再びA4に特異出現が観測される可能性があります。また、現在の継続前兆が上図のとおり、01月下旬に終息する可能性が計算されます。これを確認することが重要です。

- 【以前からの推定で修正無い内容】
- 推定領域: 過去に掲載図のとおり近畿圏
 - 推定規模: M7.9 ± 0.3陸域浅い地殻地震
 - 発生時刻: 午前9時 ± 2又は午後6時 ± 2